

## 人権の根拠

原 真 和

奨励者紹介〔はら・まさかず〕

関西学院聖和短期大学教授

神は御自分にかたどって人を創造された。

神にかたどって創造された。

男と女に創造された。

(創世記 1章27節)

### 世界人権宣言

皆さん、おはようございます。

皆さんは今年2018年が「世界人権宣言70周年」に当たっていることをご存知でしょうか。世界人権宣言は、1948年12月10日に、国際連合(以下、国連)総会で採択されました。このことを記憶するために、毎年12月10日は「人権デー」とされていて、世界中でさまざまなイベントが行われることになっています。日本では法務省が中心となって、毎年12月4日から10日までの1週間を人権週間としていまして、さまざまな啓発イベントが行われます。毎年人権週間になりますと、新聞各紙の第1面に広告が出ます。しかし、気づいている人は多くないと思います。

世界人権宣言の第1条は次のように言っています。「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」。スマートフォンを持っている人は、「世界人権宣言」を検索すれば、外務省のサイトにある日本語訳にいくことができます。英語で見たい人は、“Universal Declaration of Human Rights”を検索すれば、国連のサイトにいくことができます。後で、ぜひこの機会に、世界人権宣言の内容を確認していただきたいと思います。

幸いなことに、人権は、現代の社会においては、抽象的な観念ではありません。憲法やさまざまな法律、さまざまな国際条約に定められている具体的な権利です。人権の明文化の歴史の中で、重要な文書としては、アメリカ合衆国独立宣言(1776年)やフランス人権宣言(1789年)などがあげられます。それらは、歴史的に非常に優れた宣言でしたが、実際には、一部の人の人権の宣言にとどまっていたと言わなければならない面がありました。これらに対して、世界人権宣言は、国連を背景とする国際法体系の中で、「すべての人間」の尊厳と平等性を宣言した最初の権威ある文書であり、現在も有効なものです。この宣言は、その後のさまざまな人権に関する国際条約の基礎となっているもので、前文と条文が30条まであります。それほど長いものではありませんので、時々読み直したいものです。

### 人権に関する疑問

しかし、世界人権宣言を読むと、さまざまな疑問が湧いてくると思います。何を根拠にこのようなことが言えるのか。人権の根拠はどこにあるのか。科学から人権が出てくるわけではないでしょう。むしろ、人権の観点から、科学の研究や利用に対して、一定の制限が必要なのです。資本主義や市場経済の原理から人権が出てくるものでもないと思います。むしろ、人権の観点から、労働者や消費者の権利が守られる必要があるのではないのでしょうか。また、憲法や法律、宣言や条約などは、当然のことですが、人間が原案を書き、政治的なプロセスを経て、修正され、議決され、効力をもつに至っている文書です。人間が書いたものなのですから、歴史的な限界がありますし、完全無欠のものではないでしょう。

### ジェンダーギャップと死刑制度

ところで、日本は人権先進国でしょうか。世界経済フォーラムの世界ジェンダーギャップ報告2017によると、日本のジェンダーギャップ(性の格差)は144の国々の中で114位という評価でした。非常に低い評価です。日本はジェンダーギャップが非常に大きい国だということになります。また、アムネスティ・インターナショナルによると、2017年末の時点で、死刑を法律上廃止している国は106カ国でした。死刑の執行をやめている国を含めると142カ国に達します。それに対して、2017年に死刑の執行があった国は23カ国で、日本はその中に入っています。日本では、今年2018年にも複数の死刑の執行があり、国際的な批判を受けました。死刑制度がある国は世界では少数派なのですが、日本では80%以上の人たちが死刑制度を支持しています(2014年の調査)。ジェンダーギャップと死刑制度は、全く別のことのようにも思えますが、データの的には、死刑がある国のジェンダーギャップは大きいという傾向が確認できます。

世界人権宣言の内容には、採択から70年を経た今でも、まだまだ実現していないものが含まれています。たとえば、国を立ち去る権利や他国に避難する権利などです。世界人権宣言の内容は、日本だけに限らず、今なお、人類の課題です。

### 生物としての人間の感情

人間の心の中にはさまざまな感情がありますが、自分の心の中にも、人間の尊厳と平等性の実現の妨げになるようなさまざまな感情があることに気づくことも非常に重要なことだと思います。人間は、一つの生物として、大型哺乳類の一種として、進化してきた過程で、さまざまな感情を獲得してきたと考えられます。私たち人間は、自己の生存や自己の集団の生存のために、自己中心的な傾向、季節にかかわらない性欲、他の集団への警戒心や嫌悪感、将来についてのさまざまな不安、ルールを破った人が罰せられることを喜ぶ気持ち、などをもっていると考えられます。このような生物としての人間がもっている傾向を科学的に理解し、自分の中にもそれがあることに気づくことは、非常に重要なことだと思います。

### 人権の存在論的根拠

人権思想は、歴史的に見れば、西洋の歴史の中で明文化されてきた部分が大きいでしょう。それでは、人権は西洋思想なののでしょうか。ある人は、人権は西洋思想なのだから、アジア人がそれに従う必要はなく、自分たちは自分たちの価値観に従って伝統文化を継承していくべきなのだと考えるかもしれません。これは、私たちの選択の問題であると言うことができるでしょう。すなわち、私たちはどのような社会を望む

のか。個人が人間として尊重される社会を望むのか、それとも、全体が優先され、特定の人たちが苦しまなければならない社会を望むのか。私たちはこれから自分たちが生きていく社会が、自分たちの子や孫が生きていく社会が、どのような社会であってほしいと願うのでしょうか。人権の観点から見れば、人類の伝統や慣習の中には、改めるべき部分があるでしょう。キリスト教の伝統の中にも改めるべき部分があるでしょうし、イスラム教の伝統の中にも、儒教や仏教や神道の伝統の中にも、改めるべき部分があるでしょう。

国連憲章の前文は「基本的人権についての信念」という言い方をしている、世界人権宣言の前文もこれを引用しています。この「信念」という言葉は、英語では faith in fundamental human rights という言い方になっていて、神への信仰を言う場合と同じ faith in という言葉が使われています。

人権は、本質的には観念や思想にすぎないのでしょうか。それとも、人権には、実在的な、存在論的な根拠があるのでしょうか。私は、人権の実在的、存在論的根拠は人間という存在そのものにあると思っています。古代のイスラエル人もそのことに気づいていて、そのことを創世記1章27節のように表現したのではないのでしょうか。人権を、法律で定められているから尊重するというだけではなく、一人ひとりの人間の存在に伴っているものとして、人間の尊厳を肌感覚として実感できる者でありたいと思っています。皆さんも、同志社でのさまざまな学びや研究の体験をとおして、人間の尊厳と平等性を実感できる人になっていただきたいと願っております。

イエスは、神を大切にすることと人間を大切にすることは切っても切れない一つのことであると語りました。最後に、イエスが教えた「主の祈り」を、マタイによる福音書の6章にあるその部分を読む形で、祈りたいと思います。

『天におられるわたしたちの父よ、

御名が崇められますように。

御国が来ますように。

御心が行われますように、

天におけるように地の上にも。

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。

わたしたちの負い目を赦してください、

わたしたちも自分に負い目のある人を

赦しましたように。

わたしたちを誘惑に遭わせず、

悪い者から救ってください』。

アーメン。